

2020年12月27日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 8 : 2～10

ルカによる福音書 11 : 14～23

「神の指」

<主の祈りを教えて下さったイエスさま>

主日礼拝では、ルカによる福音書のみ言葉を最初から順番に聞いています。

今日は11章14節以下が読まれましたが、11章に入って1～13節までは、イエスさまが弟子たちに「主の祈り」を教えて下さったところでした。

イエスさまは、弟子たちに、天地の造り主である神さまを、親しく「父よ」と呼んで祈り始めるようにと教えて下さいました。これは、神の独り子であるイエスさまだからこそ、教えることが出来る祈りです。

神の御子であるイエスさまは、これから、ご自分の十字架の死と復活によって、救いの御業を成し遂げられます。そして、ご自分の救いを信じた者の罪を赦し、神の子として下さいます。だからこそイエスさまは、これからご自分の命をかけて救い出す弟子たちに、「わたしが、あなたたちの罪を贖う。あなたたちは神の子とされる。だから、あなたたちは祈る時に、天の神さまを『父よ』と呼びなさい。そして、幼子が親に頼るように、安心して、心から信頼して、あなたを愛して下さい、天の父なる神さまに祈り求めなさい。」そう言って、この「主の祈り」を教えて下さったのです。

イエスさまが、神さまに遣わされたわたしたちの救い主であり、神の御子である。イエスさまの「主の祈り」は、このことに基づいています。

<その力はどこから？>

そして今日は、そのことが示された後の出来事です。

神の御子イエスさまが弟子たちに「主の祈り」を教えて下さったあと、イエスさまは、ある口の利けない人から悪霊を追い出しておられました。

「悪霊」という言葉を今の時代のわたしたちが聞くと、前時代的な人々の妄信だとか、精神の病のことだとか、理由の分からない病気を悪霊という言葉で説明しているだけだ、と言われる方があるかも知れません。

しかし、ここで大切なのは、「悪霊」というのは、この世に確かに存在する、人が抗うことのできない、どうしようもない力、人を支配する闇の力を示している、ということです。またそれは、神さまから人を引き離そうとする力、神さまに敵対しようとする力を意味しています。

ですから14節に語られていること、悪霊によって口を利けなくされていた人が、イエス

さまによって悪霊を追い出され、ものを言い始めた、というのは、単にイエスさまが奇跡で病を治せる素晴らしい医者である、という話ではありません。

これは、悪霊に捕らえられて、そのどうしようもない支配の中にいた人を、神の御子イエスさまが解放し、神さまのご支配へとその人を取り返して下さった。その人の存在を、イエスさまが闇の支配から、神さまのご支配へ移して下さった、という出来事なのです。

この時イエスさまは、エルサレムへ向かう旅の途上におられました。それは、エルサレムで十字架の死と復活の御業を成し遂げ、世のすべての人を罪から解放し、悪に勝利し、死に打ち勝って、神の支配を実現して下さるためです。

今日のところで、悪霊に捕らえられた人を解放し、その人に癒しと平安をもたらして下さったのは、そのようにイエスさまによって神の支配が実現することの先取りなのです。それが、ここで起こっていたことなのです。

さて、群衆はこの様子を見て驚きました。しかし群衆は、このイエスさまの御業が神さまの力によるものである、と素直に認めることが出来ませんでした。

ここに、二つの反応が書かれています。

一つは、15節にあるように、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者があった、ということです。「ベルゼブル」というのは、「家／屋敷の主（あるじ）」という意味です。イエスさまがしているのは、神の力による業ではなくて、強い悪霊ベルゼブルの力を使って、下っ端の悪霊を追い出しているのだ、ということです。

もう一つは、イエスさまを試そうとして「天からのしるしを求める者がいた」ということです。つまり、これだけでは神の力であると信じることは出来ない。イエスさまが救い主、神からのメシアであると認めることは出来ない。もっと決定的な、神の力と分かるもの、自分が納得できる証拠を示してくれ、ということです。

この二つ目のことに関するイエスさまのお答えは、後の29節以下に語られて行きますので、これはまた後日に聞きたいと思います。

とにかく群衆は、目の前で起こった、イエスさまが悪霊を追い出された、という出来事について、それが神さまの力によるものと認めません。そして、どういう力によるものか、イエスさまが何者なのかを評価しようとしているのです。この目の前の出来事が、自分の救いに関係することだとか、イエスさまが自分に関わりのある方だとは全く思っていない。出来事を傍から眺めて、これは何の力だろう、神の力か、悪霊の力かと、自分を納得させる答えを探し、第三者の立場に立って、イエスさまを値踏みしようとしているのです。

<イエスさまのお答え>

さて、今日は群衆の一つ目の反応に対するイエスさまのお答えに耳を傾けます。

群衆の、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」という声に対して、イエスさまは二つのことをお答えになりました。

一つは、17 節から 18 節です。「しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。『内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。』」

ようするに、悪霊の頭の力で悪霊を追い出すなんていう内輪もめをしたら、サタンの国、悪霊の国は成り立たなくなるではないか。内部で対立する国は分裂し、荒れ果て、倒れるだろう。だから、悪霊を追い出しているのは、同じ悪霊ベルゼブルの力などではない、ということなのです。

続けて、イエスさまはこう言われました。19 節です。「わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。」

当時、ユダヤ人の中でも悪霊を追い出すということをしている人がいました。つまり、イエスさまは、「あなたたちの仲間にも、悪霊を追い出している者がいるではないか。それなら、あなたたちは自分の仲間も、悪霊の頭ベルゼブルの力を使っていると言っていることになるが、それでいいのか。あなたたちは、自分の足元を掬うような、矛盾したことを言っているのではないか。」そう指摘しておられるのです。

そして、こう言われました。20 節、「しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。」

つまり、イエスさまは、「これは悪霊の内輪もめではない。ベルゼブルの力などではない。わたしは神の指で、悪霊を追い出しているのだ。この世の天と地を作った神の指で、すべてを支配する神の力で、わたしは悪霊に打ち勝っているのだ。だから、わたしが悪霊の支配を打ち破るところには、神の支配がもたらされている。わたしが悪霊を追い出したまさに今ここには、わたしによって神の支配が実現しているのだ。」そう語っておられるのです。

そして、イエスさまは 21 節で、ご自分が悪霊に勝る神の力をもって、悪霊に捕らわれた人を解放し、神のご支配のもとに置かれることを、たとえて語っておられます。「強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。」

最初の「強い人」というのは、強い悪霊のことです。それが、自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。「その持ち物」というのは、わたしたち人間のことです。わたしたちは、強い悪霊が武装して守っている屋敷の中において、安全な状態にある。つまり、人はしっかり悪霊の下でガードされてしまっている。自分の力では悪霊の支配から逃れられない状態にある、ということなのです。

ところが、このわたしたちをガチガチにガードしている、武装した強い悪霊よりも、もっと強い者が襲って来る、というのです。それが、イエスさまです。

イエスさまは、圧倒的な神の力によって悪霊を襲い、勝つのだと言われます。そして、悪

霊が頼みとしている武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。つまり、悪霊に捕らわれていたわたしたちを、勝利の分捕り品として、イエスさまは御自分のものとされる、ということなのです。

これは、イエスさまの、サタンや悪霊に対する勝利宣言です。それは、イエスさまが神からのメシアであり、救い主であり、神の御子だからこそ、このように宣言なさることが出来るのです。

悪霊に捕らえられ、口を利けなくされた人を、イエスさまは神の力で、力づくで取り返される。悪霊に勝る神の力で、その人を悪霊の支配から、神の支配に移すことが出来るようになる。それが、今起こった出来事なのだ、と語っておられるのです。

そして、このイエスさまが宣言なさる勝利は、この後、十字架の苦しみを担い、わたしたちの罪も滅びも背負って死なれ、そして復活なさせて、完全なものとなります。

十字架の死は、まるで一見、神の御子がサタンに敗北したかのような光景です。しかし、そのお姿は、罪に捕らわれ、悪に捕らわれ、そして死に捕らわれたわたしたちを取り返すために、神の御子がわたしたちの絶望と死の果てにまで来て下さったゆえのお姿です。

そして、神さまはイエスさまを復活させ、完全な勝利に与らせて下さいます。イエスさまが罪にも、悪にも、死にも打ち勝たれ、すべてを支配なさるのです。

この完全な勝利を、イエスさまは宣言しておられるのです。救いの成就を、神の支配を、約束しておられる。そして、それをご自分のご生涯によって、ご自分の命によって、成し遂げられるのです。この御業を成し遂げる方が、神の言葉を語り、神の御業を示し、今、群衆の目の前で、神の支配が来たことを示しておられるのです。

<あなたはどうするのか>

ですから、本当は群衆一人一人にとって、これは他人事ではありません。彼らは自分とは関係ないこととして、悠長にイエスさまを評価しようとしています。しかし、先程イエスさまがたとえで言われたように、すべての人は、「強い人が武装して自分の屋敷を守っていて、その持ち物は安全である」という状態にあるのです。群衆の一人一人が、悪霊の支配に捕らわれ、自分ではどうしようもない状態になっている。神さまの声ではなく、自分の声に聞き従い、神さまから離れ、罪の只中に置かれている。その状態にあるのです。だからこそ、疑いと、不信と、神の力を冒瀆するような言葉しか、彼らは語る事が出来ません。口が利けなくされているのです。正しい言葉を語れなくなっているのです。

しかし、今その人々を取り戻すために、イエスさまが来て下さったのです。悪霊を打ち破り、神のご支配へ招いて下さっているのです。神の国は来ているのです。

このイエスさまのご支配を信じ、自分をこの方に委ねるのか。それとも、悪霊の支配の中に留まるのか。人が立てる場所は、そのどちらかです。中立の立場、観客、傍観者などではいられません。イエスさまの力はあまた、こうだと値踏みしている場合ではありません。も

はや、みなその渦中に立たされているのです。

そして今、イエスさまが神の国を告げ知らせ、御言葉を語り、御業を示し、ご自分の下へ招いておられる。救いの御手が神の御子から伸ばされている。

あなたたちは、その手を取るのか。拒むのか。

イエスさまが 23 節で「わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」と仰っているのは、そういうことです。わたしのところに来ないなら、神の支配を受け入れないなら、あなたたちは悪霊の支配の下に捕らわれたままなのであり、神に敵対している。わたしと一緒に神の民を集めないなら、わたしと共に来ないなら、神から離れて行っているのだ。散らしているのだ。そう告げておられるのです。

<イエスさまの招き>

わたしたちもまた、群衆と同じです。いや、当時の群衆よりも、もっとはっきりイエスさまの勝利を示されています。イエスさまが来られ、十字架と復活によって、すでに救いの御業は成し遂げられたのです。わたしたちの罪の贖いを成し遂げ、死に打ち勝ち、悪に勝利を治めておられる。もう神の国は来ているのです。それは告げられているのです。

イエスさまは、わたしの支配の下に来なさい。わたしの勝利のもとで歩みなさい。そう招いて下さっています。

このイエスさまの下に行かないなら、わたしたちはあらゆる神さまの御心に背く力に、捕らえられたままなのです。罪に留まったままなのです。

悪霊に捕らえられた者は口が利けなくなる、というのは、ある意味象徴的です。神を賛美することが出来ない。祈りの言葉を知らない。神の呼びかけに応えることが出来ない。そして、自分の利益になるような言葉しか語れない。相手を利用し、貶め、傷つける言葉しか語れない。それが、悪霊に捕らえられたわたしたちの姿です。

しかし、イエスさまがわたしたちを取り返して下さる。わたしたちを悪霊から解放し、神さまの愛のご支配の中に置いて下さる。このことを受け入れ、信じるなら。わたしたちは、イエスさまによって神の子として受け入れられ、新しくされ、ふさわしい言葉を語る者とされるのです。神さまを賛美し、神さまの呼びかけに応答し、祈りの言葉が与えられるのです。隣人を慰め、励まし、生かす言葉を語る者、福音を告げる者とされるのです。そして、イエスさまと共に集める者、イエスさまの救いの御業に仕えていく者とされるのです。

イエスさまは、神の支配を実現し、わたしたちを招いて下さっています。神のご支配を受け入れるように、イエスさまの下で生きるようにと、招いて下さっています。

この世には、まだ悪霊の力があり、サタン誘惑があり、わたしたちを罪へ押しやろうとする力が働いています。ですから、わたしたちは傷つけあったり、苦しむ隣人に無関心でいたり、利己的な行動に走ったりしてしまいます。

しかし、わたしたちがイエスさまの勝利を信じ、イエスさまのご支配のもとに逃れて行く

なら。もはや悪霊に支配されているのではないと知り、イエスさまの御手に自分を委ねるなら。イエスさまは圧倒的な神の力で、わたしたちを支え、守り、導いて下さるのです。自分が負けそうだ、倒れそうだと思っても、イエスさまの力がわたしを捕らえ、支え続けて下さるのです。イエスさまがわたしの手を離すことは、決してないのです。

わたしたちは、自分の意志や、根性や、努力では、この世の悪と戦っていくことは出来ません。わたしたちはとても弱いのです。ですからわたしたちは、イエスさまの勝利によってのみ、神の力によってのみ、この世の誘惑や、悪の力や、罪の力と戦っていくことが出来るのです。

わたしたちは、神に遣わされた救い主、神の独り子、イエスさまの下に行きましょう。この方が、わたしたちを悪霊から解放し、分捕り品とし、ご自分のものとして下さいます。

しかも、わたしたちは捕虜や奴隷のように扱われるものではありません。天の父なる神さまは、わたしたちをご自分の子どもとして、神の国の財産を受け継ぐ者として、迎え入れて下さるのです。

わたしたちは、イエスさまの勝利と、神のご支配への招きに、感謝して、喜んで飛び込んでいきたいのです。そして、神の子として、神に従って、歩む者とされたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

罪と死に捕らえられたわたしたち、悪霊の支配によって、神さまから遠ざかっていたわたしたちのために、イエスさまを遣わして下さり、勝利を治めて下さり、わたしたちを神さまのご支配へ招いて下さったことを、感謝いたします。

わたしたちが、この神さまのご支配への招きに、喜んで応えることが出来ますように。

神さまを信じ、イエスさまの勝利を信じ、私自身の人生を、歩みのすべてを、神さまの御手に託すことが出来ますように。

終わりの日まで、イエスさまの確かな勝利に支えられて、希望をもって、罪や悪と戦い、忍耐する力を与えてください。

また、神さまが望まれる言葉を語る者として下さい。神さまの栄光をほめたたえ、また隣人を慰め、支え、生かす者となることが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン